

つがるの昔っころ (昔話)

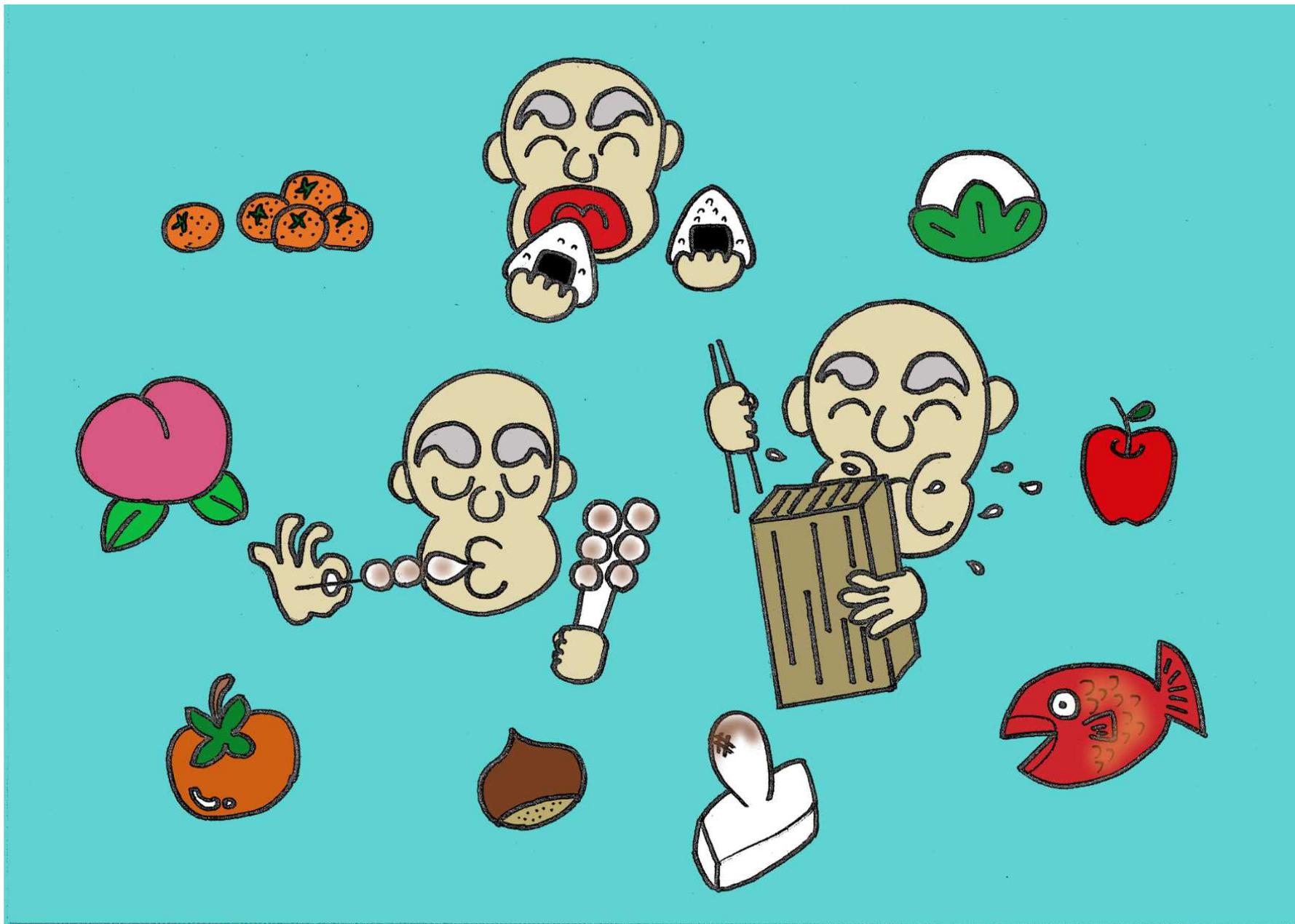
和尚様と小坊こ ①

(標準語)



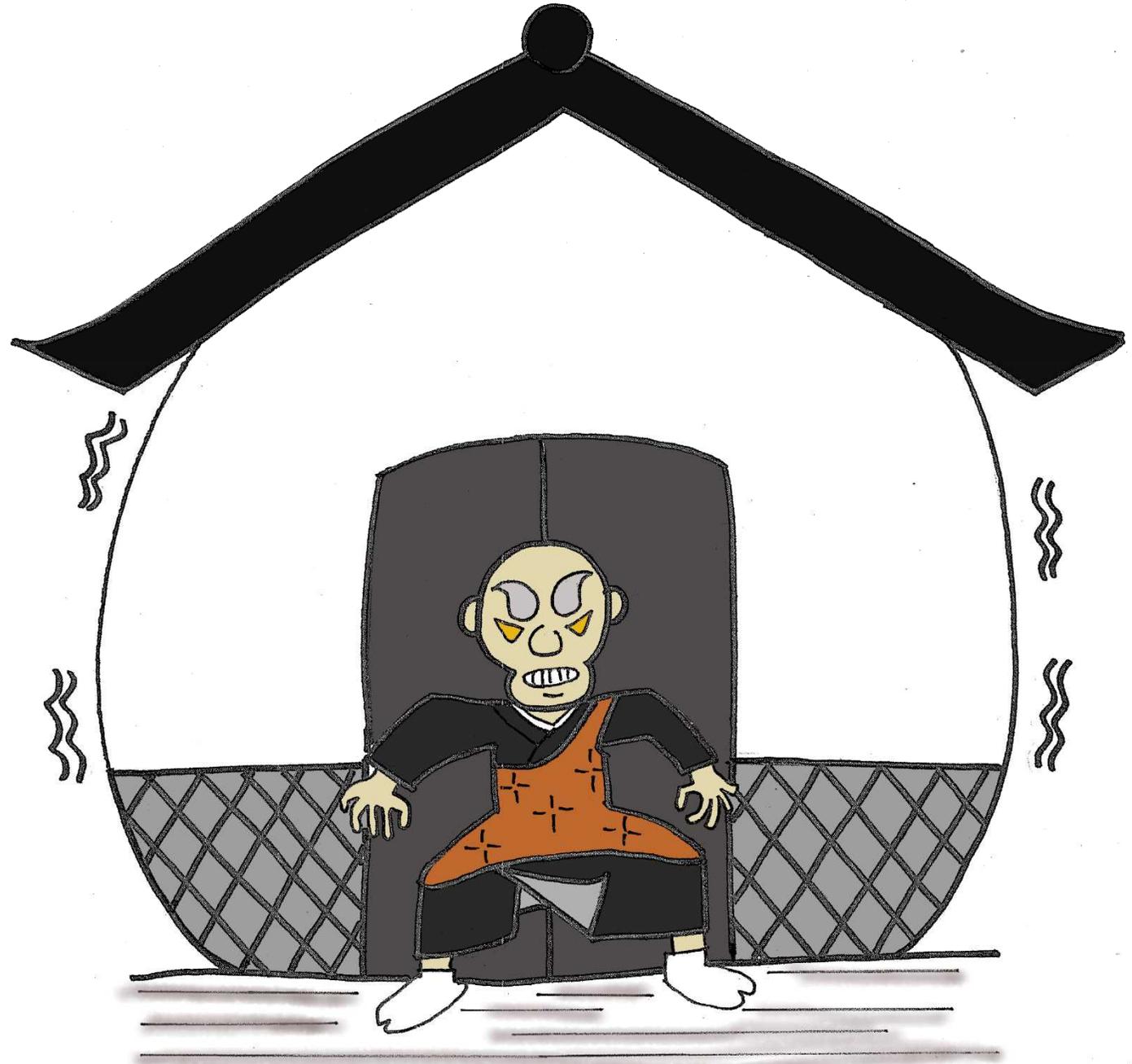
昔、山寺に和尚様と3人の小坊主がいました。小坊主とは子供のお坊さんの事です。

国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト : うじいえ ひろみ
カラーリング : みやかわ みなみ



この和尚様はとてもケチな人で、法事に呼ばれても小坊主は連れて行かず、自分だけご馳走になって、余った料理を折に詰めてもらって持ち帰っても、小坊主たちに分けずに、一人でこっそり食べていました。

さらに、この和尚様には、小坊主たちに隠している大切な秘密がありました。
この和尚様は、大きな袋を作って、冬の寒い時期に冷たい吹雪の風を袋いっぱい詰めて、蔵へ隠していました。



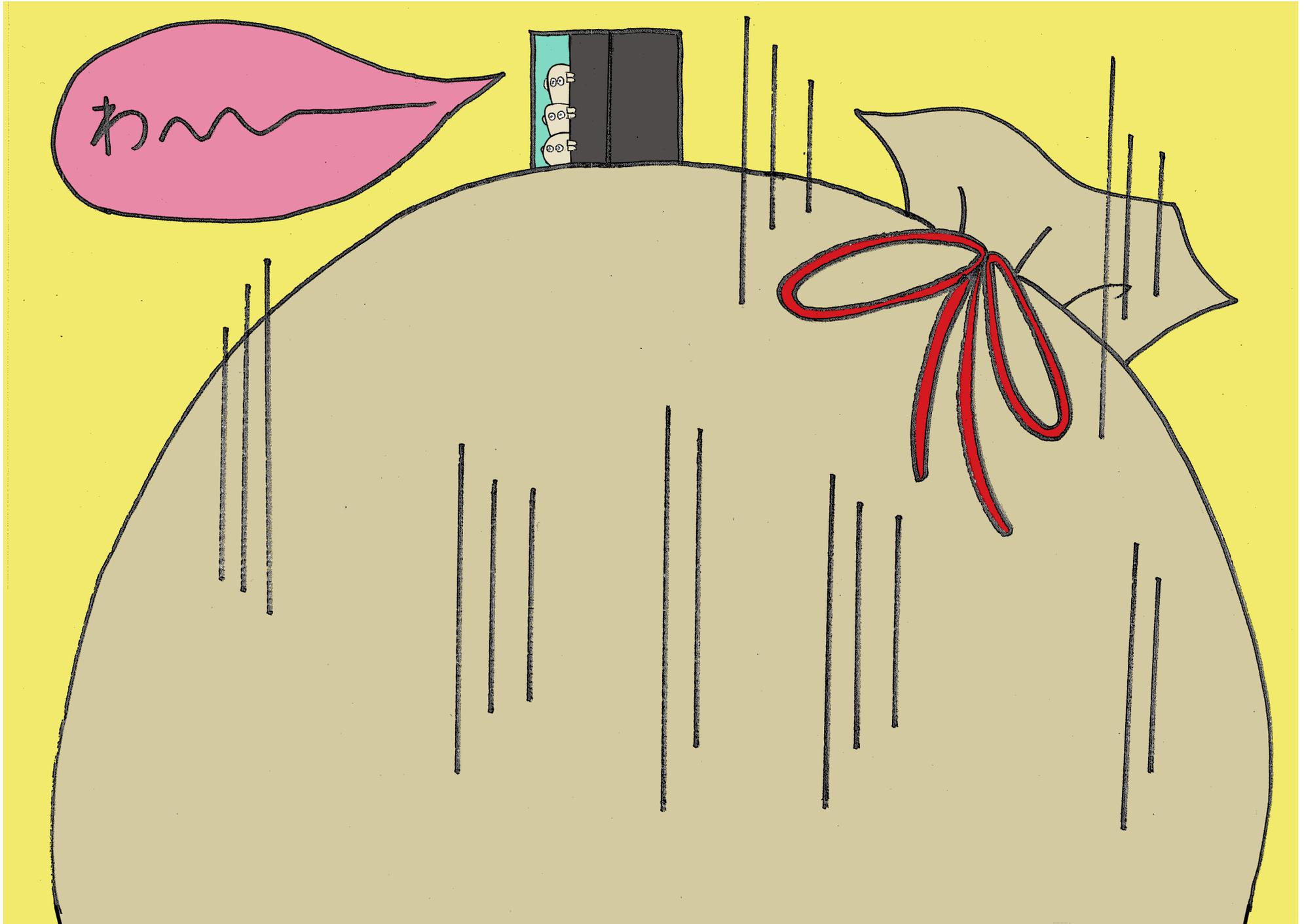
そして、夏の暑い日に出先から戻ると
『ちょっと、蔵で捜し物をするから。誰もじゃまをしてはいけないよ』
と言い、蔵の中へ入って、袋の口を開けて冷たい風をあびました。
『わあ、気持ちが良いなあ。なんて涼しいんだ。なんて気持ちいいんだ』と、一人で楽しんでいました。



小坊主たちは、和尚様が頻繁に蔵の中へ入って行っては、さっぱりとした顔で出てくるので、蔵の中に何があるんだろう？と話しをしていました。

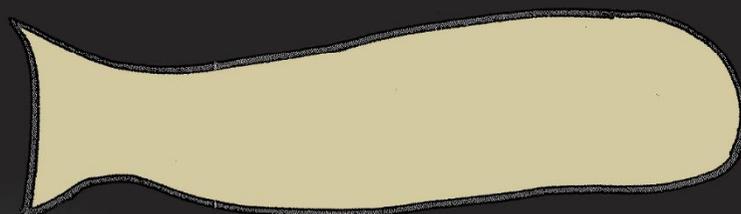


ある時、和尚様は蔵に鍵をかけるのを忘れて、法事へ出かけました。
小坊主たち3人は、その隙に蔵に入ってみると大きな袋がありました。



『何が入っているんだろう』と思って、袋の口を静かに開けて見ると、気持ちの良い、冷たい風がフワーっと出てきました。

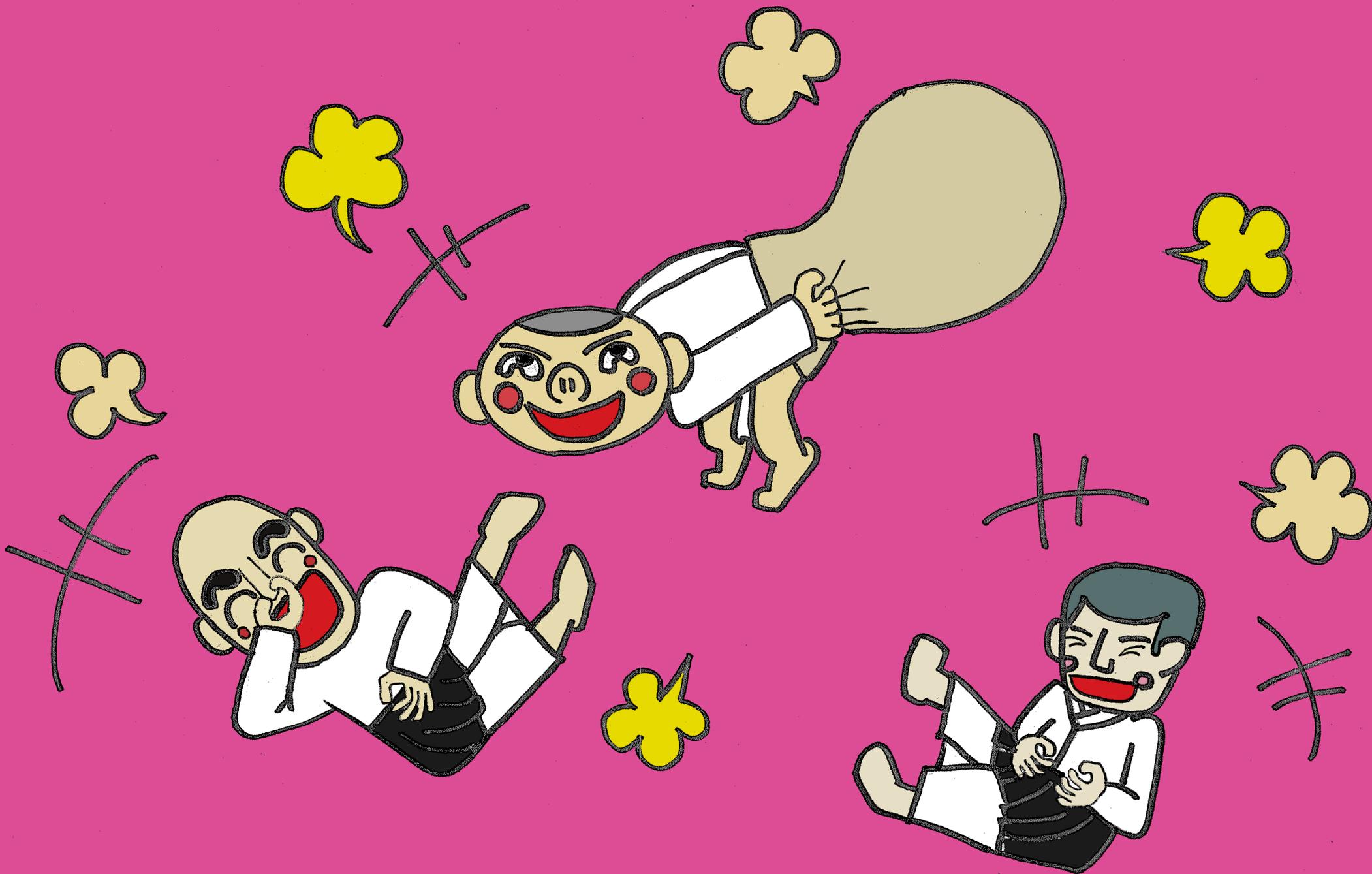




あまりの気持ちよさに、『俺がもう1回』『俺がもう1回』とかわるがわる袋を開けて風をあびたので、とうとう冷たい風は無くなってしまいました。

小坊主たちは困ってしまいました。

『和尚様もどって来たら叱られてしまう。どうしよう、どうしよう』と頭をくっつけて相談をしました。



それから、
袋の口にお尻を付けて、3人代わる代わるにおならをして、袋の口を結んでおきました。

すると、和尚様が戻って来ました。

『さあ、また、蔵の中で調べものをしようかな』と言って、蔵に入って行きました。
そして、紐を引っ張って袋の口を開けると、臭い風がモワッと出てきました。



和尚様は、驚き、目を回して

『わあ、冬の風でも、この暑さで腐ってしまったのかなあ』と言いました。
臭くて面白い話だね。

おしまい